

(款) 15民生費 (項) 10児童福祉費 (目) 5児童福祉総務費

◎子育て支援の経費

次世代育成支援対策推進事業

【 こどもみらい課 】

【総合計画上の位置づけ】

健やかで心豊かに暮らせるまち

健康福祉:すべての市民が健康で安心して生活を送ることのできる環境が整っているまち

【事業の目的】

対象 子育て家庭等

意図 市民が安心して子どもを産み育てることができ、子どもが心身ともに健やかに育つことのできる環境を整備するため。

効果 「子どもが健やかに育つまち、子育ての喜びが実感できるまち、子育て支援を通してともに育つまち・鎌倉」の実現

【事業の内容】

(1) 次世代育成支援対策推進事業

- ・平成17年3月に鎌倉市次世代育成きらきらプランを策定し、平成21年度までの5年間の前期計画を明らかにした。庁内推進委員会を中心に協議会と連携しプランの推進を図った。
- ・平成22年度以降の後期計画策定に向けたニーズ調査を実施した。

【中事業に含まれる実施計画事業】

次世代育成支援対策の推進(4-1-4-④)

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
3,698	3,698	2,093		1,605

主な支出内訳

・次世代育成支援対策推進事業

次世代育成支援対策協議会委員謝礼

224

次世代育成支援ニーズ調査業務委託料

1,869



平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) (1)次世代育成きらきらプラン策定から4年目となり、重点課題をはじめ、次世代育成支援全般に対するより積極的な取り組みが求められた。 (2)21年度中に策定する次世代育成きらきらプラン後期計画のニーズを把握するための調査(ニーズ調査)を実施し、結果の集計をした。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) (1)プラン推進のため、次世代育成きらきらプラン庁内推進委員会及び次世代支援対策協議会を2回ずつ開催した。 (2)昨年度に引き続き、20年度についても年次報告書である『鎌倉きらきら白書』を発行し、広報やホームページで周知したほか、公共施設でのダイジェスト版の配布、子育て世代の集まる場所への出前説明を実施するなどし、市民周知に努めた。 (3)ニーズ調査について、神奈川県を示す調査項目に追加して、鎌倉市独自の調査項目を追加して行った。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ニーズ調査結果の分析が重要であるが、20年度中に調査結果の分析に基づく課題の抽出までには至らなかった。
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) (1)ニーズ調査分析結果に基づく課題の抽出を行い、次世代育成きらきらプラン庁内推進委員会及び次世代支援対策協議会を積極的に活用し、次世代育成きらきらプラン後期計画の策定を進めていく。 (2)今後も『鎌倉きらきら白書』の発行等を通じ、次世代育成きらきらプランの市民周知に努める。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	A	改善の必要性 無
	次世代育成きらきらプランの着実な推進は、本市における次世代育成支援対策の進展に重要と考える。22年度から26年度まで5年間の後期計画の策定に向けて、全庁的な取組みとすべく機運を高めていきたい。				
担当課長氏名:		こどもみらい課長 佐藤 尚之			

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	A	改善の必要性 無
	「鎌倉市次世代育成きらきらプラン」後期計画策定に当たっては、前期計画で掲げた基本理念「子どもが健やかに育つまち、子育ての喜びが実感できるまち、子育て支援を通してともに育つまち・鎌倉」を継承するとともに、新たに「仕事と生活の調和の実現の視点」の追加や新待機児童ゼロ作戦との整合性を図りながら計画策定を行いたい。また、市民会議を開催するなど広く市民の声を取り入れて計画策定を行いたい。				
担当部名	こどもみらい部	部長名	岡部 富夫		